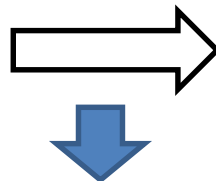


交通対策の概要

大会の規模

選手等:オリ4.0万人、パラ1.2万人
[専用バス・車両で移動]
観客等:オリ780万人、パラ230万人
[電車・シャトルバスで移動]

通常の交通
に加わると



- ・首都高の渋滞が約2倍に悪化
 - ・都内湾岸部の一般道で渋滞悪化
 - ・都内主要鉄道・駅で局所的に混雑
 - ・県内競技会場・成田空港周辺でも混雑
- ※何も対策をとらない場合

円滑な大会運営と都市活動の両立を図るための交通対策が必要

目標

道路: 休日並みの交通環境(首都高等は最大30%減、それ以外は10%減)
鉄道: 現状と同程度の安全で円滑な交通環境

[取組の概要]

交通需要マネジメント (TDM)

企業・個人に呼びかけて交通量の抑制等を行う取組

(主な取組)

- ・物流ルート・時間の変更
- ・時差出勤・休暇の取得推進
- ・テレワークの取組促進 等

交通システムマネジメント (TSM)

規制等により交通量を削減・調整する取組

(主な取組)

- ・料金所レーンの削減・閉鎖
- ・一般道の信号調整
- ・会場周辺の通行規制 等

公共交通マネジメント

鉄道等による円滑な輸送を図る取組

(主な取組)

- ・鉄道の増便
- ・終電時間の延長 等

首都高ロードプライシング(2019年夏の試行結果受けての追加対策)

昼間はマイカー等を対象に1,000円を上乗せ、深夜はETC車を全線・全車種を半額にして交通量をシフトさせる

各種取組を組み合わせることで大会時の円滑な移動環境の実現を目指す